

生活リハビリをカタチにします

リハビリデザイン研究所は新しい介護、生活リハビリをカタチにして提案しています。とくに形、デザインにこだわりました。それに伴う研修などわかりやすく提案しています。

1990年に三好さん主催の日本オムツ外し学会に参加して、新しい介護を提案する介護職とともに具体的にカタチにする仕事を始めました。新しい介護や生活リハビリは知識としては知っている方は多いと思います。しかし実行しているかというとまだまだ少数なのではと思っています。実行するためのハードとソフトをもって介護が変わっていくところに立ち会いたいと考えています。

私は、30年前にパッド型の紙おむつを開発して以来、オムツ外し用のパッドや家具調ポータブルトイレ、幅広ベッド、ベッドスペサー、テーブルや椅子等、生活を重視した家具などをカタチにしてきました。

この10年はヒノキ浴槽でお風呂の改革に取り組んできました。ハードを変えると、間違いなくソフトが変わります。新しいことを始めることは勇気のいることです。しかし変わった施設は多数出現しています。あなたの施設も変えてみませんか。そんなお手伝いをしています。(山田 穰)

生活リハビリ式入浴小史

その1

生活リハビリクラブ

何回かに分けて、生活リハビリ式入浴の歴史的経過を紹介してみたいと思います。

生活リハビリ式入浴の発生は、川崎市の民間デイサービス「生活リハビリクラブ麻生」になります。1988年頃だと思います。

「生活リハビリクラブ」は生協が始めたデイサービスで、下山名月さんと金田由美子さんを開設メンバーとしてスタートを切りました。素人だった彼女たちは三好さんにアドバイスを仰ぎました。三好さんは広島で在宅訪問をしていた頃、家庭で普通の浴槽に入っている老人を見て、施設の浴槽よりも家庭の小さな浴槽のほうが入りやすいことに遭遇しました。施設こそ普通の浴槽にするべきと考えていたそうです。「生活リハビリクラブ」から相談を受けたときにこの浴槽を設置するようにアドバイスしました。ただし多少の不安があったようで「バスマン」という水圧で上下する機械を入れていました。使っているうちにバスマンは要らないこと、どんな人でも入れることがわかってきました。

週に一度三好さんが来て行う日々の体操や動作の指導が入浴や排泄に生きていきました。(つづく)



三好さんの指導で続けていた体操&レク

